

科学研究費助成事業 研究成果公開促進費 国際情報発信強化（平成30（2018）年度採択分）
 「我が国を拠点とした環太平洋連携強化による環境微生物学研究の世界の一流誌を目指す取組み」
 （課題番号：18HP2002）

学術団体名：日本微生物生態学会
 学術刊行物の名称：Microbes and Environments
 事業期間：平成30（2018）年度～令和4（2022）年度

1 取組の概要

【取組内容の特徴と目的、意義及び方法】

日本微生物生態学会は4つの共同編集学術団体とともに国際学術誌Microbes and Environments(以下「M&E」)を刊行してきた。平成25年度科研費成果公開促進費「国際情報発信強化(B)」の支援による取組によって、国際学術誌M&Eの国際的なプレゼンスの向上と安定的な地位の確立を実現し、さらにM&Eが環境微生物学分野における世界の一流誌となることを目的として、

- (1) 審査・編集体制の一層の国際化、
- (2) 審査・掲載システムの一層の効率化、
- (3) M&Eの国際的プレゼンスを加速化させる
 広報・宣伝活動、
- (4) M&Eの持続的発展に向けた学術誌経営環境の整備、
 等の取組を行う。

【応募時に設定した取組の目標・評価指標】

本事業では図1や以下に示す具体的な数値指標を掲げ、その達成に向けた取組を行う。ただし、わかりやすい数値指標の達成ではなく、様々な取組を通じて本質的なM&Eの質的向上と国際的競争力の強化を実現することが最も重要な目標であることは言うまでもない。

- (1) 国内外の6学術団体との共同編集体制を構築し、外国人編集委員の割合およびその審査・編集貢献の割合を30%程度に高めることにより編集体制の真の国際化を図る。
- (2) 5年間で年平均15万回の論文ダウンロード数と2年間IF平均が3.0以上を達成する。

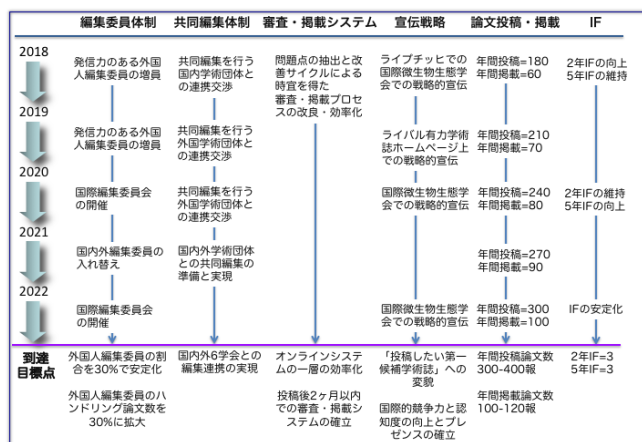


図1 我が国を拠点とした環太平洋連携強化によってM&Eを環境微生物学研究における「世界の一流誌」にするための年度計画

2 目標の達成状況

【現在までの目標の達成状況】

5番目の共同編集団体として極限環境生物学会が参画し、外国人編集委員数や貢献度の数値指標は達成されつつある。

審査・掲載システムの大きな効率化を達成した。

地道ではあるが多面的な広報・宣伝活動を展開した。

掲載論文のダウンロード数あるいはIF等の影響力数値指標は、図2に示すようにすべて数値指標の着実な上昇があった。

M&Eのオンライン出版への一本化や論文掲載料の適正化を実施した。

【今後の計画】

国際的編集体制の構築については事業期間中の共同編集学術団体の増加に固執せず、実質的な国際情報発信の強化を図る。

多面的な広報・宣伝活動を通じて、掲載論文のメトリクスに依存しないM&E掲載論文の質的向上と学術誌としての実質的な国際的認知度の向上に取り組む。

掲載論文の増加に対応するM&Eの財政環境が整備されたことにより、一層の投稿・掲載論文の増加を目指す。

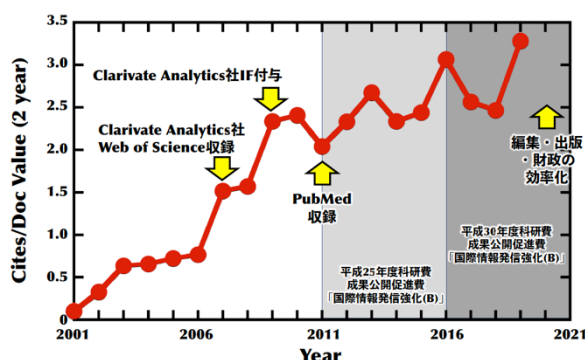


図2 M&Eの国際情報発信強化の取組と論文あたりの引用数(=IF[2年間])の変化